

H30年建築1級学科試験問題A

No1 換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 1 第3種機械換気方式は、自然給気と排気機による換気方式で、浴室や便所などに用いられる。
- 2 自然換気設備の給気口は、調理室等を除き、居室の天井の高さの1/2以下の高さに設置する。
- 3 営業用の厨房は、一般に窓のない浴室よりも換気回数を多く必要とする。
- 4 給気口から排気口に至る換気経路を短くする方が、室内の換気効率はよくなる。

解答と解説:

答え--- 4

空気に澱みがないようにできるだけ換気経路は長くするほうが良い。

No2 日照、日射及び日影に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 1 水平ルーバーは西日を遮るのに効果があり、縦ルーバーは夏季の南面の日射を防ぐのに効果がある。
- 2 北緯35度における南面の垂直壁面の日照時間は、春分より夏至の方が短い。
- 3 同じ日照時間を確保するためには、緯度が高くなるほど南北の隣棟間隔を大きくとる必要がある。
- 4 建物の高さが同じである場合、東西に幅が広い建物ほど日影の影響の範囲が大きくなる。

解答と解説:

答え--- 1

西日を防ぐには横ルーバーだと遮蔽しきれないので縦ルーバーとするほうが好ましい。

No3 吸音及び遮音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 1 グラスウールなどの多孔質材料は、厚さが増すと高音域に比べて中低音域の吸音率が增大する。
- 2 共鳴により吸音する穿孔板は、背後に多孔質材料を挿入すると全周波数帯域の吸音率が增大する。
- 3 コンクリート間仕切壁の音響透過損失は、一般に高音域より低音域の方が大きい。
- 4 単層壁の音響透過損失は、一般に壁の面密度が高いほど大きい。

解答と解説:

答え--- 3

コンクリートなど比重の大きなものは低音域の音の透過損失が大きくなる。高音域の音の透過損失はグラスウールなどが効果的。

この過去問は受講者専用のページです。
お申し込みされますと全ての過去問がご覧頂けます。
お早目のお申し込みお願い致します。

受講お申込みはこちらから



<https://www.sekou-net.jp/entry/>